

総括質問

特認校と県立公園の
共有巡回バスについて

柏木 幸平議員

特認校制度充実のために
公的交通機関確保を

柏木幸平議員 小規模校入学特別認可制度が十四年度から始まり、終野小学校でも、校長・PTA会長・公民館長が主体となり、成功させようと地域ぐるみで募集に頑張っている。また、泊野小学校は山村留学と特認校制度の両面で地域をあげて取り組んでいる。

しかし、既存の定期バスはダイヤが逆設定のため、利用できない。また、保護者が遠進小学校内より終野小・泊野小の特認校二校まで、十数キロメートルの距離を、一日二往復するのは保護者の負担となり、一人親の世帯では通学させたくても、時間的余裕が

なく断念しなければならぬ状況である。

県内の特認校の状況は、川内市をはじめ四市七町で十八の小中学校が一〇八人の認可をしている。保護者送迎の自主通学は五校で四人（一校は〇人）と少なく、市・町や民間委託のスクールバスによる通学は六校で七五人。また、市・町が全額負担をするタクシーや定期バス通学では、五校で二九人となっている。

このように、特認校への公的交通機関が確保されている学校は希望者も多いが、保護者送迎の自主通学では、希望者も少ない。

町内の二校を巡回する送迎バスが運行されたら希望者も増え、学校も地域も活気づき、この制度も持続すると考えるのだが。

福留教育長 特認校制度が成功するには、交通手段が大きなウェイトを占める。ただ、

平成十四年度からの新たな制度で、希望者数の動向が全く予測できず、自力通学を条件とした。今後の経過をみながら、制度の目的に沿った方向で、有効に活用されるよう検討する。

県立公園への
交通手段は

柏木議員 県立公園が二時的

な人気で終わらないために、継続的なイベントや各施設も最大限利用し、魅力的な内容の検討段階と思う。今後はそのような運営の充実と交通機関の利便性の検討も関係機関とすべしと考えるが、バス停や市街地からの交通手段はどのように考えているのか。

北村町長 県立公園へ公共交通機関を利用して来訪された観光客の交通手段が確保されていないのが現状である。

解決策のひとつとして、鉄道記念館に低料金で貸し自転車を設置できないか検討している。

高齢化社会を迎え、いわゆる交通弱者への対策も含めて総合的な体策として今後検討を進める。

共有巡回バスの
有効活用

柏木議員 終野小学校は、地域活性の核であり、高齢者をはじめ、地区民の心のよりどころでもある。今後は、特認校生を確保しながら、若い世代の定住促進を図る施策も同時進行しなければならない。

県立公園は、今後の観光振興を図る上からも地元への期待も大きい。誰もが気軽に足を運べる体制が必要となるので、町が中型バス一台を地元の業者に民間委託して、特認校二校の送迎と、送迎の合間や休日・長期休暇を県立公園への交通機関として、バスの有効活用はできないか。

町長 これを契機に、県立公園だけでなく、巡回バス等については協議する時がきている。特認校との関わりも考えながら総合的に検討したい。



来園者への歓迎橋断幕（屋地商店街）